

2020

春の企画

伊勢型紙

彫りの手仕事展

2020/4/1[水]ー6/8[月]

入館時間 9:30~16:30 火曜休 (5月5日は開館)

入館料 200円(4/25~6/1の紙博特別展期間中は300円)

団体150円(特別展期間中200円)、高校生以下無料

江戸小紋などの染の型紙に使われる和紙を、越前にて試験的に漉く事になったのを機に、「彫りの手仕事展」として伊勢型紙のご紹介をいたします。

- 型紙彫りの実技見学 } 5/4(月・祝)
13:00~15:00
- 型紙彫り体験(500円) } 5/5(火・祝)
10:00~12:00
13:00~15:00

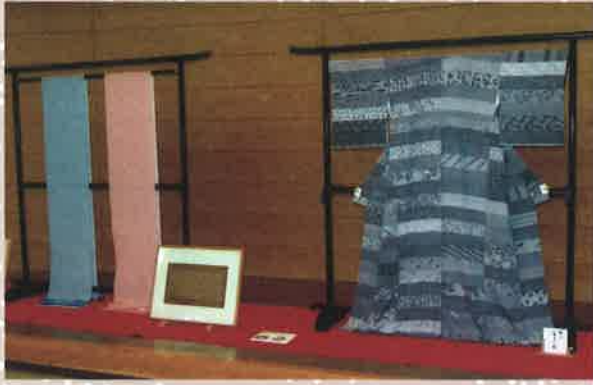
越前和紙の里 卯立の工芸館

協賛：伊勢型紙技術保存会

お問い合わせ・体験ご予約/0778-43-7800 udatsu@echizenwashi.jp

<http://www.echizenwashi.jp>

伊勢型紙技術保存会 (三重県鈴鹿市白子・寺家町)



伊勢型紙は、型染めに用いられるもので8世紀頃に始まったといわれ、柿渋を用いて和紙を貼り合わせた紙に、細かい刃先の彫刻刀で精巧微細な図柄を彫り、さらにこれを漆で固めます。「錐彫り」、「突彫り」、「道具彫り」、「縞彫り」のほか「糸入れ」などの技法があります。

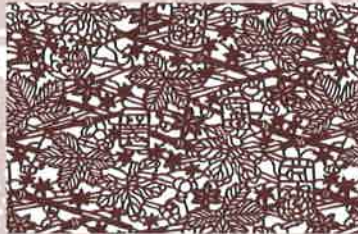
平成3年に組織された伊勢型紙技術保存会は、その後「国の重要文化財保持団体」に認定され、伝統的な技術の保存と伝承に努めてこられました。昨年来、越前にて型紙用紙を試験的に漉かせていただいたのを機に、和紙を柿渋で貼り合わせる「型地紙づくり」や、「彫り」の職人技を中心に、伊勢型紙の概要をご紹介します。



錐彫り(きりぼり)

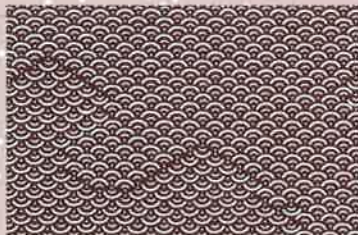
小さな丸の連続によって図柄が構成される伊勢型紙の代表的な技法で、小紋型に多く用いられます。

「鮫」・「行儀」・「通し」と呼ばれる図柄は最も格調が高く、錐小紋三役と言われています。



突彫り(つきぼり)

錐彫りとともに最も古い技法とされており、小紋型、中型などを彫る技術です。四方に柄がつながるように、図案などから「小本(四方口)」を作ります。小本が彫り上がったたら型紙に墨で写し、7~8枚の地紙に彫っていきます。



道具彫り(どうぐぼり)

刃物自体が桜・菊などの花卉のように一つの文様に造られており、そのまま一突きで彫り抜く技法をいい、道具の出来映えが作品を大きく左右します。江戸小紋などの小紋用に用いられ、御召十・七宝・菊菱・桜・梨割りなどの代表的な文様があります。



縞彫り(しまぼり)

直線や曲線で図柄を表現するもので単調に見えますが、線がわずかにずれても柄に微妙な狂いを生じさせてしまう難しい技法です。縞柄には、3cm幅の間に彫られる縞筋の本数によって、大名縞(10本)、毛万(20本)などの名前がつけられています。

■展示内容

和紙～型紙の製作工程
彫りの四技法と糸入れ
型紙作品
染め生地・反物見本
江戸小紋作品
彫刻道具
など

■型紙小物の販売

糸入れ

縞彫りや、模様が大きく不安定な型紙では、地紙の間に糸を入れ柿渋で接着させる「糸入れ」という技法により模様を補強します。



実技見学と型紙彫り(しおり)体験

5月4日(月・祝) 13:00~15:00

5月5日(火・祝) 10:00~12:00
13:00~15:00



1枚/約1時間・500円

※小学4年以下のお子様は保護者同伴が必須。

※諸般の事情により内容が変更する場合がございます。ご了承ください。